

令和5年度公益社団法人鹿児島県栄養士会事業報告

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症による種々の制限や制約によって世界が様変わりする中、私たち公益社団法人鹿児島県栄養士会(本会)は、可能な限り本会の目的に沿った事業を推進して参りました。5月8日「2類感染症」から「5類感染症」へ移行されたものの、会員の関連する職域は介護・医療・健康関連事業が多く、県民の健康を守るため、また日常を取り戻すため、いまだに日々ご苦勞されていることと思います。さらに、自然災害、台風などによる豪雨が多発、地震も継続しています。鹿児島は複数の活火山を控えており、場所によっては警報が継続している現状にもあり、災害時の対応なども身近なものとして捉えておかなければなりません。

本会の公益活動の柱である県民公開講座は、鹿児島大学大石充教授の特別講演を中心に、12月17日鹿児島の北海道:伊佐市で開催しました。参加者176人、始良・伊佐を中心に、ご協力いただいた会員32人、伊佐市が求める“地域に眠った豊かな食材で健康増進!”のお手伝いにしようと、取り組んでいただきました。霧島連山が青空の中にくっきりと浮かび上がった絶好のロケーションに、底冷えする厳しい寒さのなかでも、住民の皆さんの笑顔にこそ豊かさを感じる一時でした。

自己研鑽の場として令和3年度から継続しているリレー研修会は、年10回(受講者延べ1611人)、様々なテーマで開催いたしました。なかでも第9回は多職種研究会『かごしま臨床栄養連携研究会』と合同研修会として、かごしま県民交流センターを会場に集合型で開催、face to face の会場の雰囲気は満足感に満ち溢れていました。今回は展示ブース(27社)も設け、新しい情報収集の場としても好評でした。

例年継続している「管理栄養士によるクッキング講座(うち1回は農水省協賛)」も復活し5回(延べ61人)開催、小児糖尿病サマーキャンプ関連事業サマーウォーク・糖尿病週間イベント、CKD 週間イベント・てら(町)の保健室11回(延べ24人)・たるみず元気プロジェクト14回(うち報告会3回)(延べ51人)、市民健康まつり、歯と口の健康週間イベントなど、多くの会員の皆さんにご協力いただきました。

JDA-DAT はいち早く県と協定を結び、日々活動を拡大させてきましたが、本県は火山災害・台風災害の可能性は避けられません。これからも各地域の隊員養成に積極的に取り組み、取りこぼしのない万全の体制を講じることを目標としていきます。

県民の皆さんの相談窓口「栄養110番」は、これから広がる在宅療養の栄養介入の入口として、栄養ケア・ステーションを中心に準備してきました。開かれた栄養士会として、各地域への会員派遣など、地域との交流の足掛かりになっています。

こうした活動の中にも、介護施設や医療施設では物価高騰や物不足、そしてスタッフ不足など、いろいろな問題を抱えた一年でした。もちろん日常生活も同じような厳しさの中にあります。それらを乗り越え「人に寄り添い命を守る」ためご苦勞いただいた会員の皆さんに、こころから感謝申しあげます。